

世界のベストチョイスをお届けする独立系半導体商社

富士エレクトロニクス株式会社

平成26年2月期 決算説明資料

平成26年4月7日

〒113-8444 東京都文京区本郷3-2-12 御茶の水センタービル

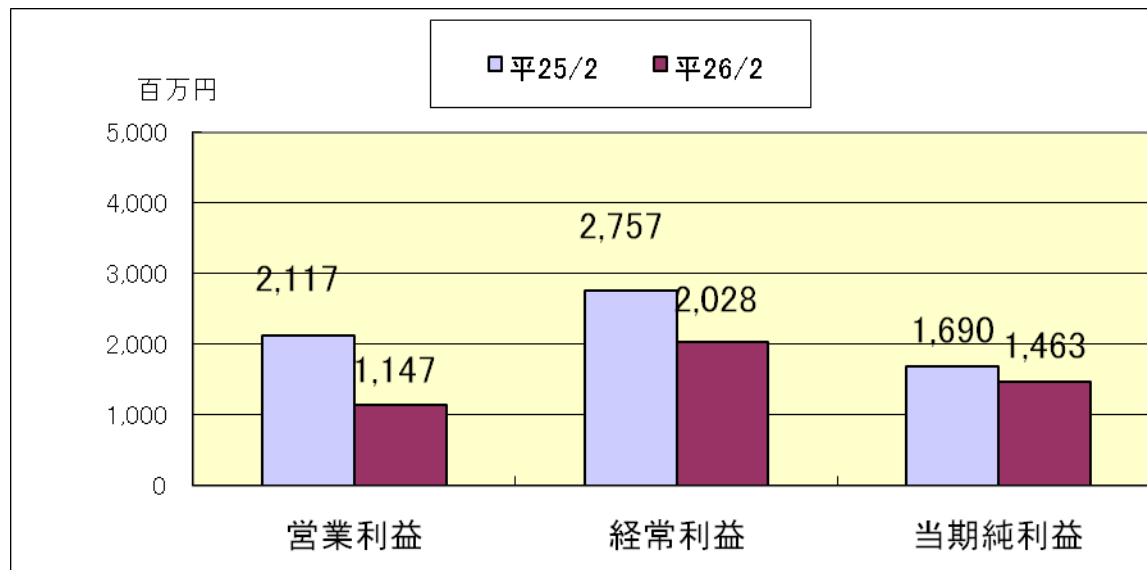
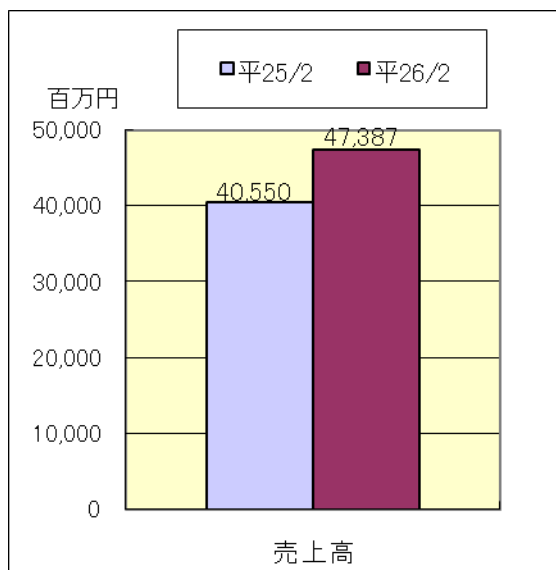
TEL 03-3814-1411(大代表) FAX 03-3814-1414

<http://www.fujiele.co.jp>

平成26年2月期 連結業績

百万円

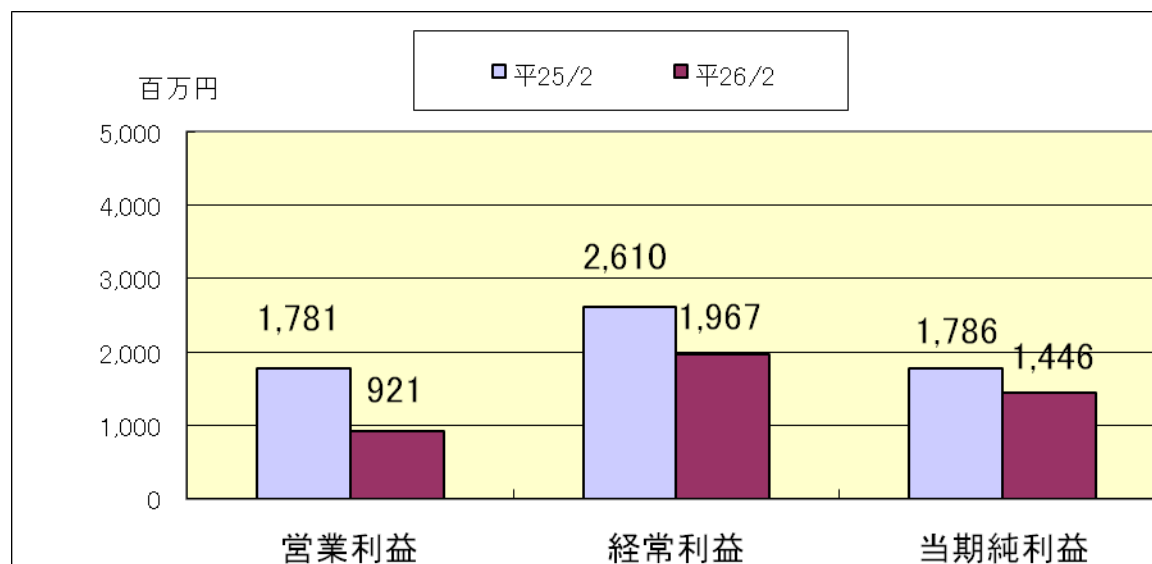
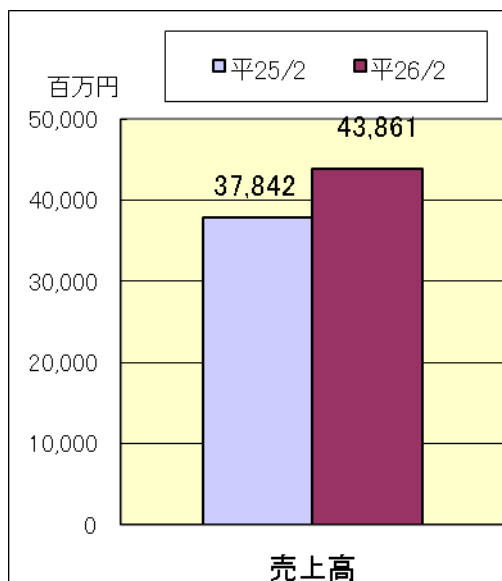
	平成25/2 実績	平成26/2 修正予想	平成26/2 実績	予想比 (%)	前期比 (%)
売上高	40,550	46,000	47,387	103.0	116.9
粗利率(%)	18.2	14.8	14.0		
営業利益	2,117	1,300	1,147	88.3	54.2
経常利益	2,757	2,140	2,028	94.8	73.6
当期純利益	1,690	1,510	1,463	96.9	86.6



平成26年2月期 単体業績

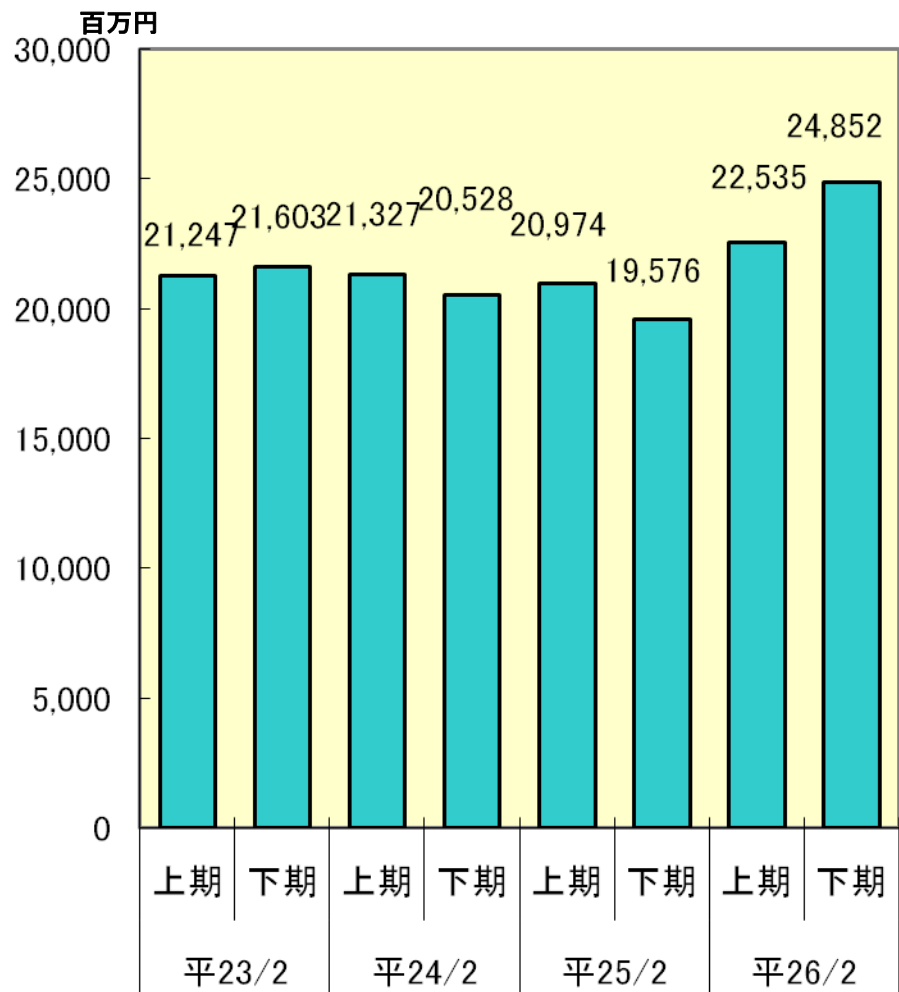
百万円

	平成25/2 実績	平成26/2 修正予想	平成26/2 実績	予想比 (%)	前期比 (%)
売上高	37,842	42,800	43,861	102.5	115.9
粗利率(%)	16.6	13.4	12.7		
営業利益	1,781	1,040	921	88.6	51.7
経常利益	2,610	2,010	1,967	97.9	75.4
当期純利益	1,786	1,460	1,446	99.1	81.0

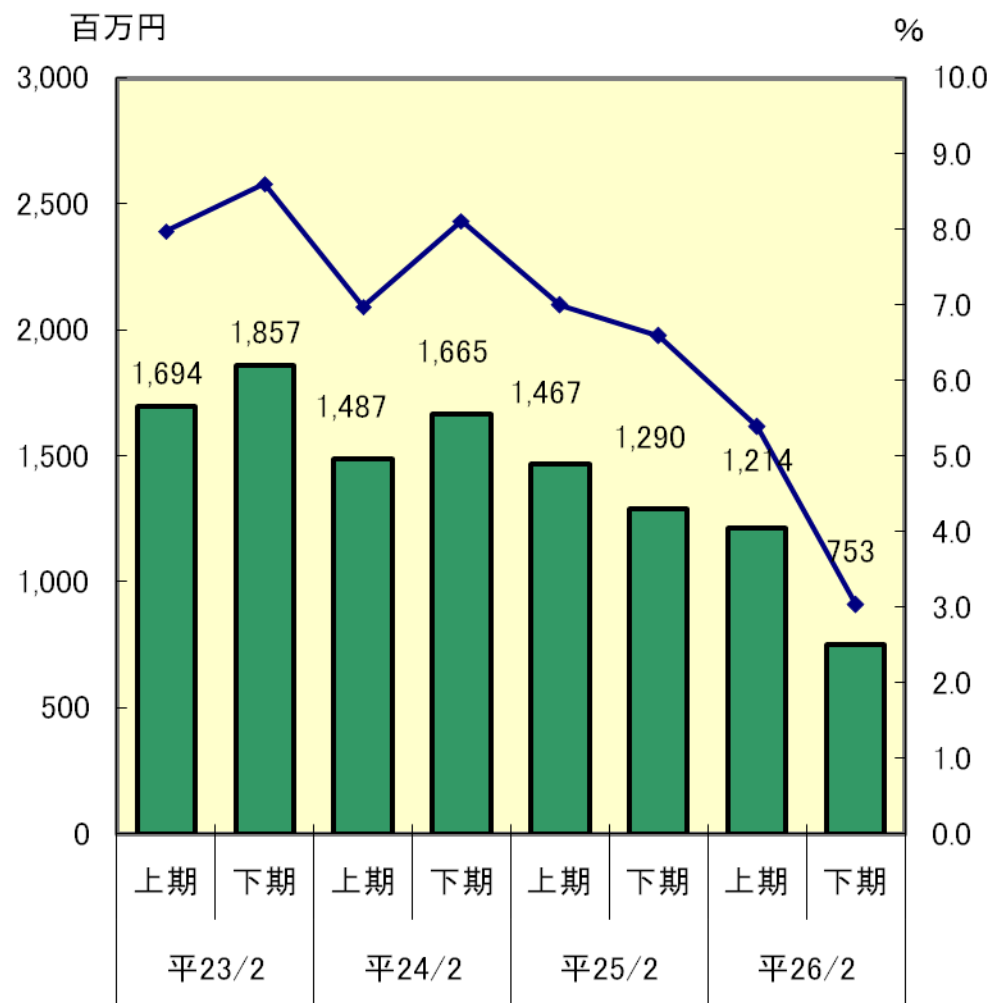


連結業績の推移

■売上高



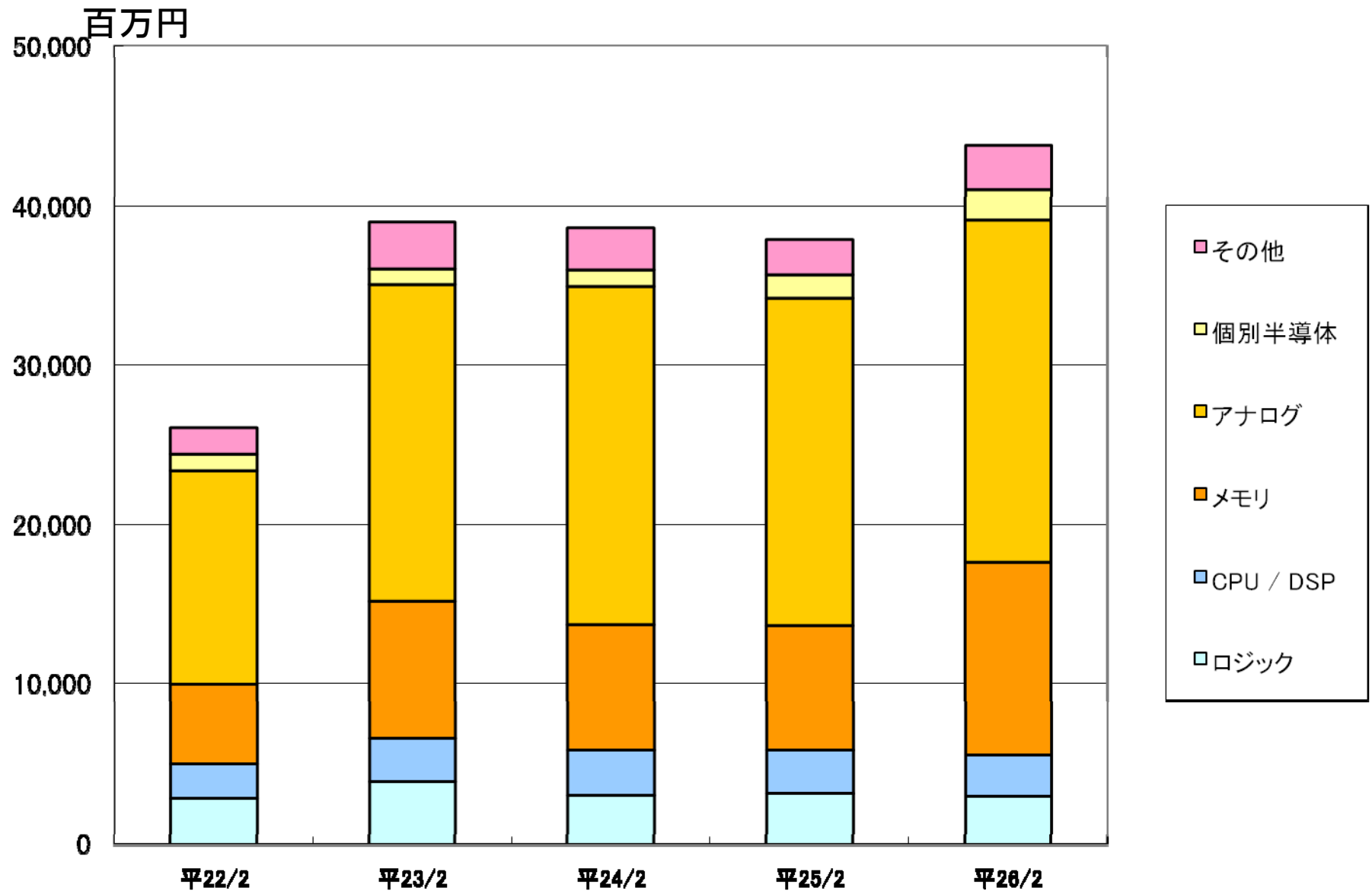
■経常利益 ◆売上高経常利益率



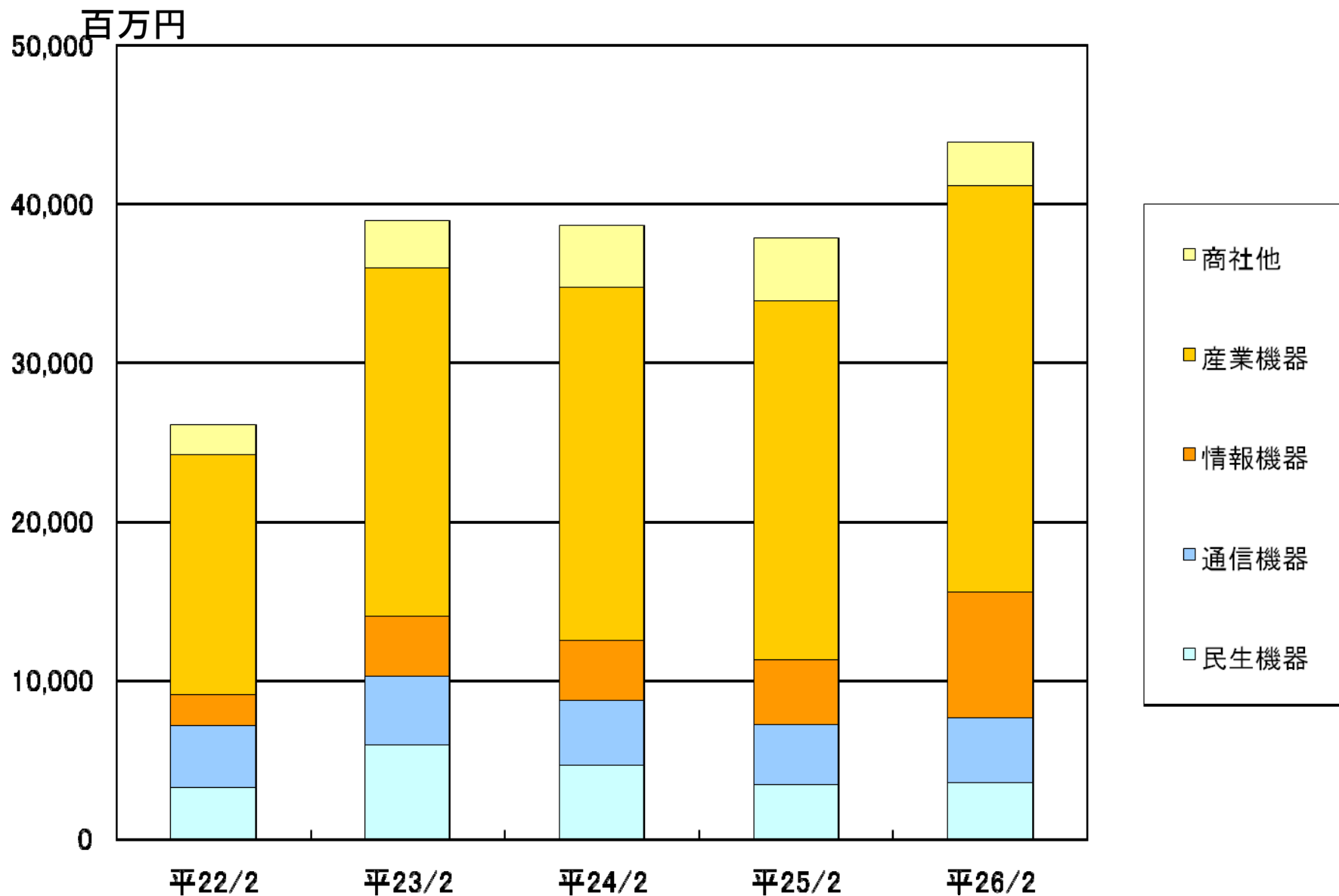
連結主要指標の状況

		平成25/2	平成26/2
総資産	(百万円)	33,955	36,454
純資産	(百万円)	22,290	23,353
当期純利益	(百万円)	1,690	1,463
1株当たり純資産額	(円)	1,591.95	1,664.36
1株当たり当期純利益	(円)	119.17	104.52
自己資本比率	(%)	65.6	64.0
自己資本利益率(ROE)	(%)	7.7	6.4
営業活動によるキャッシュフロー	(百万円)	2,186	△2,568
投資活動によるキャッシュフロー	(百万円)	△280	△547
財務活動によるキャッシュフロー	(百万円)	△1,222	△618
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	12,807	9,163
従業員数	(名)	392	414

品目別売上高（単体）



用途別売上高（単体）



主な用途先と仕入先メーカー（単体）

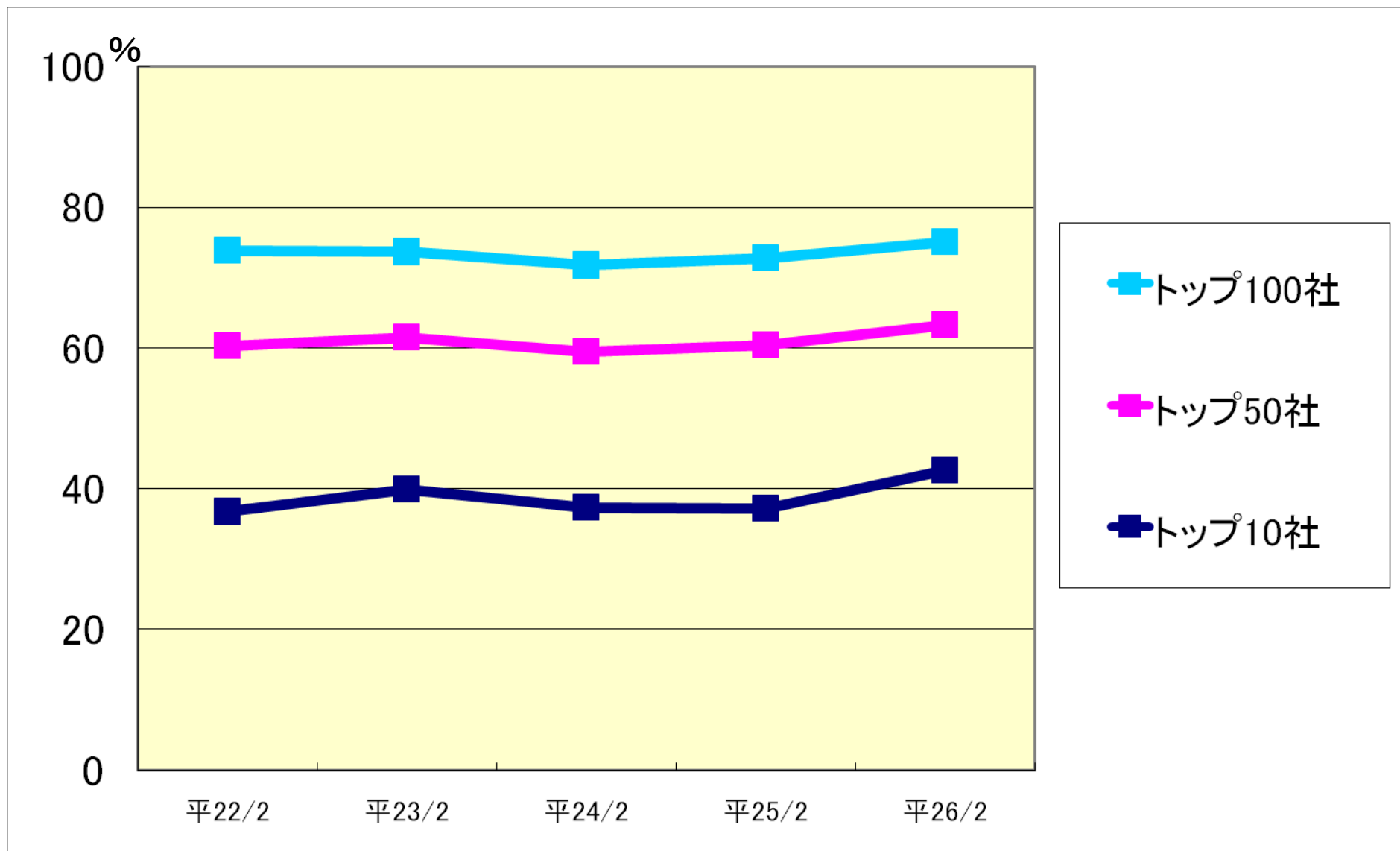
主な用途先

民生機器	カーナビ、オーディオ、エアコン等
通信機器	携帯電話および基地局、次世代ネットワーク等
情報機器	PCおよび周辺機器、サーバー等
産業機器	FA機器等製造装置、半導体製造装置、計測器、事務機器、医療機器、 モーター制御、電源装置、宇宙・防衛関係、アミューズメント等

主な仕入先

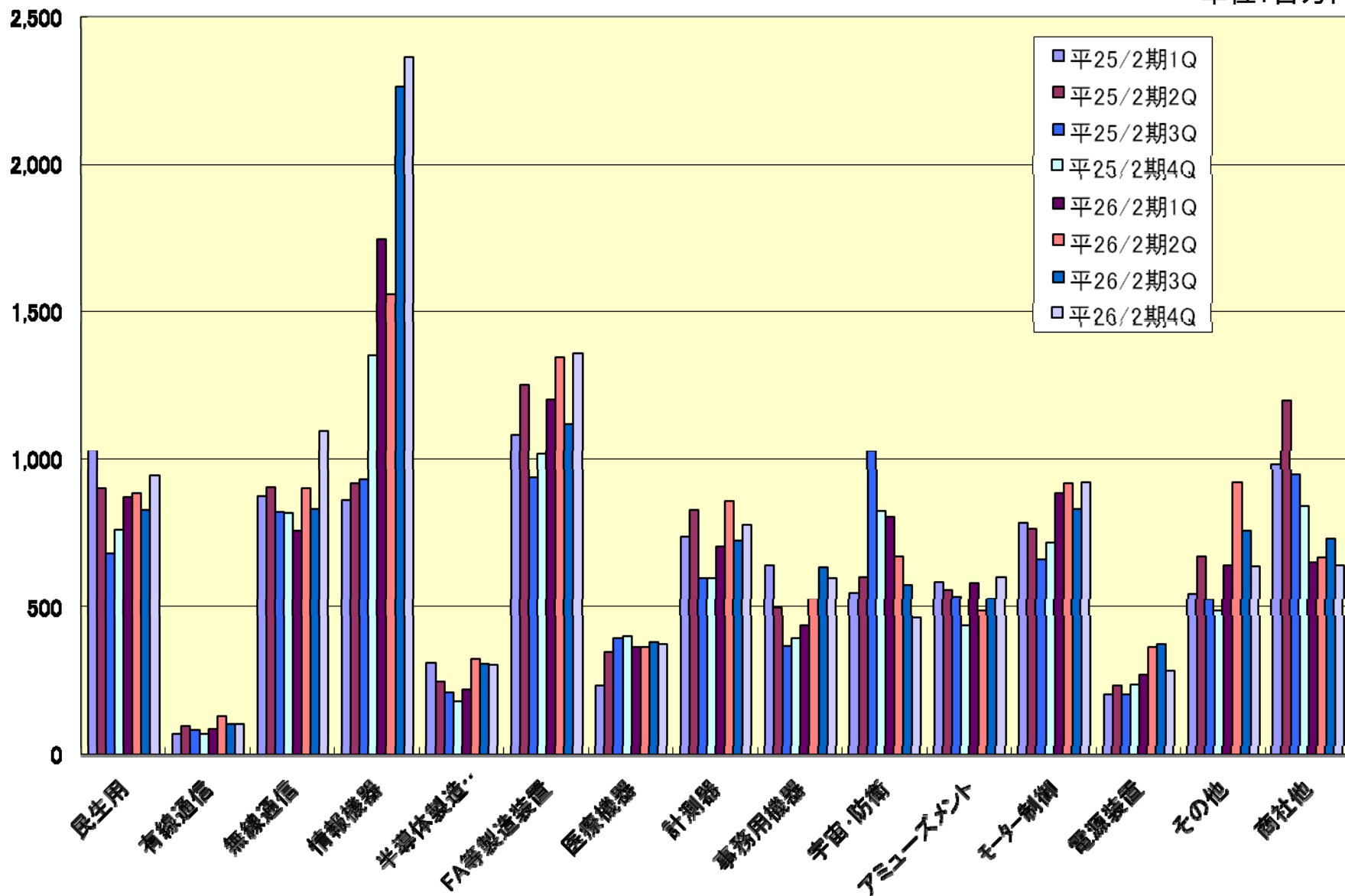
個別半導体	アバゴテクノロジー、フェアチャイルドセミコンダクタ、オンセミコンダクタ、 クリー、インフィニオン、
アナログIC	アナログデバイセズ、テキサスインスツルメンツ、
メモリIC	マイクロン、サイプレス、オンセミコンダクタ、
ロジックIC	テキサスインスツルメンツ、サイプレス、ラティスセミコンダクタ、 オンセミコンダクタ、ステップテクニカ、
CPU/DSP	テキサスインスツルメンツ、アナログデバイセズ、

客先別売上比率（単体）

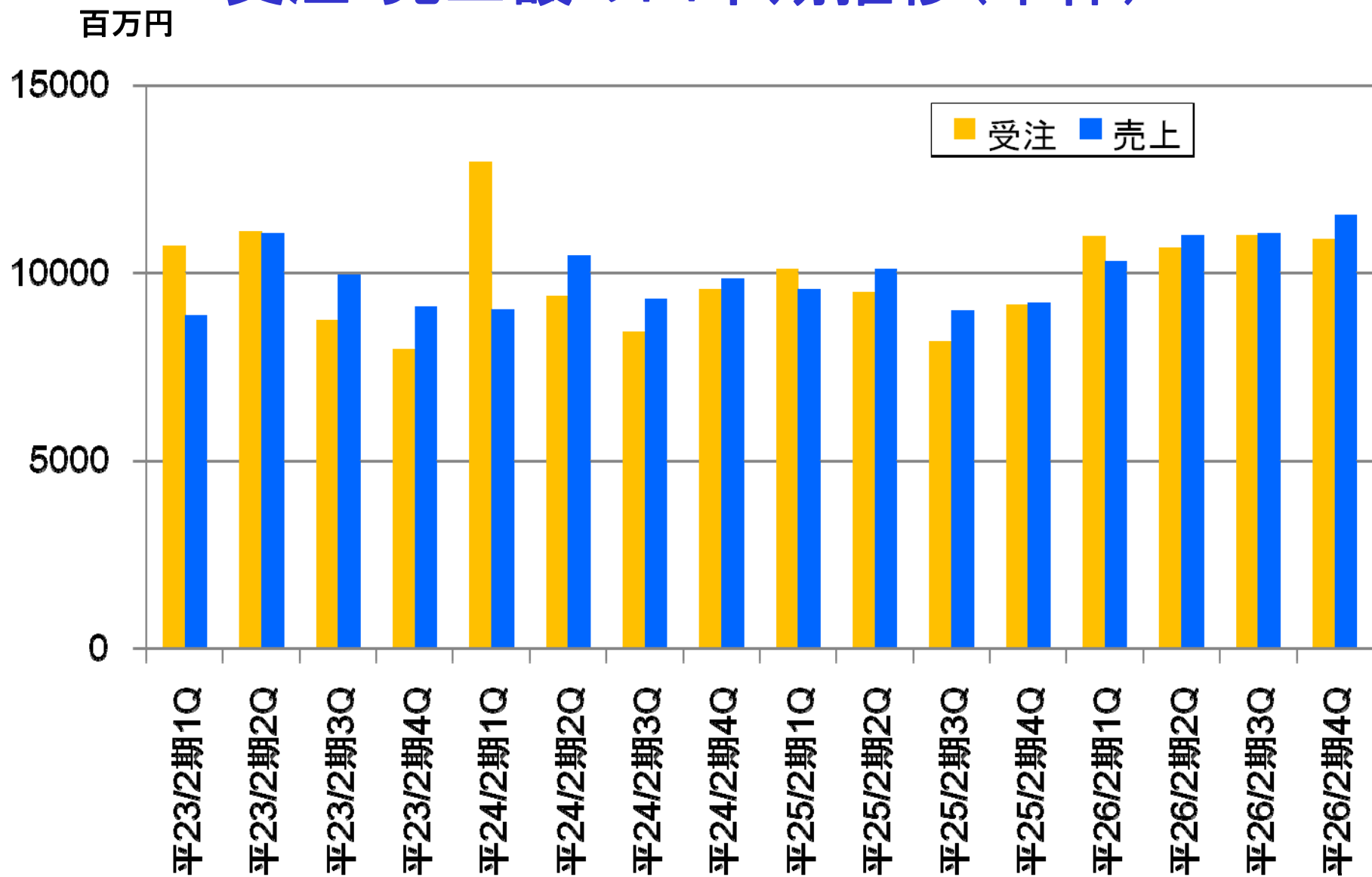


用途別売上高の四半期推移(単体)

単位:百万円



受注・売上額の四半期推移(単体)



受注・売上の四半期推移(単体)

		百万円	前年同期比(%)	前四半期比(%)
受注	平成25/2期 1Q	10,083	77.8	105.5
	2Q	9,476	101.0	94.0
	3Q	8,162	97.0	86.1
	4Q	9,145	95.7	112.0
	平成26/2期 1Q	10,954	108.6	119.8
	2Q	10,661	112.5	97.3
	3Q	11,003	134.8	103.2
	4Q	10,901	119.2	99.1
売上	平成25/2期 1Q	9,557	105.9	97.1
	2Q	10,092	96.5	105.6
	3Q	8,991	96.8	89.1
	4Q	9,200	93.5	102.3
	平成26/2期 1Q	10,290	107.7	111.8
	2Q	10,984	108.8	106.7
	3Q	11,053	122.9	100.6
	4Q	11,533	125.4	104.3

平成26年2月期のまとめ

1. 当期の経済環境は、円安・株高の進行に伴い企業業績は全般に回復傾向が見られました。海外では、米国は緩やかな回復を遂げていますが、新興国の景気拡大はやや減速気味となりました。

半導体業界は、自動車関連やスマートフォン、タブレットPCなどが順調でしたが、産業機器市場は前期から回復傾向にあり、本格的な設備投資増には至らないものの、底堅い推移となりました。

2. こうした中、当グループは、主力の産業機器市場の緩やかな回復と商流移管の効果などにより売上は順調に増加しましたが、円安の進行による仕入価格の上昇から利益面で苦戦し、増収減益となりました。

その結果、連結では、売上は修正予想比3.0%増、前期比16.9%増、経常利益は修正予想比5.2%減、前期比26.4%減となりました。

連結子会社は、アジア地区では香港が順調に業績を伸ばし、上海もまずまずでしたが、シンガポールがオンセミ・アジアとの直接取引開始の経費増加で営業損失、タイも2年目で黒字転換には至りませんでした。米国は堅調、国内は順調な推移でした。

子会社合計では、前期比で 売上で22.9%増、経常利益は11.3%減となりました。

平成26年2月期のまとめ

3. 用途別では、

メモリ大口先の情報機器向けはNAND FLASHが大幅増となり売上をけん引しました。FA製造装置・計測器など主力の産機市場向けは、設備投資の緩やかな回復と商流移管により全般に好調でした。宇宙・防衛向けは大口案件の終息により減少、商社向けは、商流引継ぎの完了により減少しました。

富士エレ再成長プラン(前期スタート)

【目 標】

連結売上高500億円突破と収益体質改善、強化

【重点分野】

1. 強みである産機分野、中堅・中小客先向けの販売強化
2. 車載市場およびパワー半導体市場で本格的な開拓
3. アジア地区の営業拡大戦略の実行

平成27年2月期 基本方針

「粗利改善・経費効率化に集中、増益必達」

- ✓ 連結売上高 510 億 (前年比 107.6%)
- ✓ 連結経常利益 26.1 億 (前年比 128.7%)

平成27年2月期 重点課題

- [1] 粗利改善に向けた指導・管理の強化
- [2] 中堅・小口顧客開拓の新戦略構築と実行
- [3] アジア営業拡大のため全社連携の強化
- [4] デマンドクリエーション強化に向けた営業サポートシステム改善と活用徹底
- [5] 経費効率化の取り組み徹底

平成27年2月期 連結予想

単位：百万円

	平成25/2	平成26/2		平成27/2	
			前期比		前期比
売上高	40,550	47,387	116.9%	51,000	107.6%
粗利率	18.2%	14.0%		15.7%	
営業利益	2,117	1,147	54.2%	2,570	223.9%
経常利益	2,757	2,028	73.6%	2,610	128.7%
当期純利益	1,690	1,463	86.6%	1,670	114.1%

平成27年2月期 単体予想

単位：百万円

	平成25/2	平成26/2		平成27/2	
			前期比		前期比
売上高	37,842	43,861	115.9%	47,000	107.2%
粗利率	16.6%	12.7%		14.3%	
営業利益	1,781	921	51.7%	2,130	231.1%
経常利益	2,610	1,967	75.4%	2,400	122.0%
当期純利益	1,786	1,446	81.0%	1,600	110.6%

平成27年2月期 業績見通し(まとめ)

1. 日本経済は、円安と株高で企業業績は回復基調にありますが、消費増税の影響や経済政策効果による景気動向が注目されるところです。世界経済は、米国経済の回復に伴う金利政策や、中国など新興国の景気拡大の減速など不透明要因はあるものの、景気回復基調は継続していくものと考えられます。

半導体市況も、2013年は過去最高の市場規模に達し、今後もゆるやかな成長が予測されています。

こうした中、今期は、当社は再成長プランの2年目として、連結売上高500億の達成と、増益の必達を念頭において重点戦略を推進してまいります。

2. 単体は、主力のFA製造装置や計測器など産機向けが設備投資の増加を見込み、情報機器向けもさらなる拡大を見込んでおります。
3. 子会社も、米国の宇宙関連向けの堅調継続、アジアの取引量拡大、国内各社も産業機器向け回復を見込んでおります。